

## 元寇が日本に与えた影響

## ～徳政令が出されたナゾにせまる～

社会 第1学年

能登町立小木中学校

## 1 事例の概要

本校では、自分の考えを表現したり、伝え合ったりすることを柱とした言語活動の充実を図ることにより、学ぶ意欲、学んでいこうとする意欲を高める授業につなげ、活用力の向上を図ることを目指している。その中で、研究の視点を「思考力・判断力・表現力等の充実をはかるための授業の改善」「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着」「学習の基盤づくり」「家庭・地域との連携」の4つに絞り、実践に取り組んできた。

社会科においては、「授業の改善」の取り組みとして、活用力の到達目標の設定、単元指導計画の工夫、学習過程の工夫に重点を置いた。まず、活用力が身についた姿を具体的にイメージするために、学年ごとに活用力の到達目標を「思考力・判断力」「表現力」に分けて設定した。この到達目標に近づけるためには、どのような資料を提示し、どのように活用するかがポイントになる。そこで、単元のどの時間にどのような資料を準備するのか、どの時間に活用力を意識した授業を行うのかなど、単元を見通した指導計画を作成した。また、資料から読み取ったことを、その人物の立場になって考えを書かせたり、単元のまとめには新聞づくりを取り入れたりすることで、関心・意欲を高めながら学習を進めた。

## A-1 学校研究の概要

## A-2 研究構想図

## A-3 活用力の到達目標

## 2 実践内容

## (1) 単元の目標

中世の社会の変化、文化の広がりや東アジアとの関わりに関する図版、史料、年表、歴史地図などのさまざまな資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、中世の日本の動きを政治・経済・対外関係・文化などの項目に分けて考察し、新聞にまとめたり説明したりすることができる。

## (2) 指導上の工夫点

## ① 活用力向上のための手だて

## ア 資料選択の工夫

- ・多面的な立場から価値判断をすることができる資料。
- ・根拠を持って価値判断をすることができる資料。
- ・同じ価値判断でも、その根拠が複数ある資料。
- ・自分たちの生活に結びついた資料。

## イ 授業展開の工夫

- ・資料を分析し、自分の言葉でまとめる場を設定する。  
(本時では、ワークシートの中に吹き出しの部分をつくり、生徒自身が御家人の立場で考えを書くことができるようにする。)
- ・複数の資料から、多面的・多角的に課題を追求する場面を設定する。
- ・グループ学習を行い、他人の考えを聞く場を設定する。

② 関心・意欲を高めるための工夫

ア 単元の学習に見通しを持たせる。

- ・単元の導入時に、時代の様子を大まかにとらえさせる。
- ・単元のまとめとして、歴史新聞を作成することを知らせる。

イ まとめ方の工夫

- ・「幕府の信頼度グラフ」を1時間ごとに記入していくことにより、時代の流れをつかませる
- ・歴史上の人物になったつもりで考えを書かせる。

**B-1 学習過程の工夫**

**3 指導の実際**

	主 な 学 習 活 動	支援 (★) 評価 (◎) 【評価方法】 活用の場
つ か む	1. 前時に学習した元寇について復習する。	
考 え る	2. 元寇の後、御家人の生活がどのように変わったのか『徳政令』をもとに考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">元の襲来は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのだろうか</div>	<b>資料をもとに、自らの考えを表現することができる。</b> ◎元寇が鎌倉幕府に及ぼした影響について、資料を読み取り自分の意見をまとめることができる。 (技能・表現) <b>【発言・ワークシート】</b> ★考えがまとまらない生徒は、学習活動2を振り返り考えさせる。
深 め る	3. 学習活動2を参考に、御家人の立場と幕府の役人の立場で、それぞれの吹き出しに書き込む。【ワークシート①】	

**C-1 指導案 (単元指導計画の工夫)**

**4 成果と課題**

(1) 成果

- ・活用力を意識した授業展開を考える上で、いろいろな角度から思考・判断できる資料を厳選するようになった。それにより、生徒は資料に興味・関心を持ち、学習課題に意欲的に取り組むようになった。資料の提示により、歴史上の出来事と生徒自身を結びつけることができたときは、特に関心・意欲が高まった。
- ・学習活動に自分の言葉で表現する活動を取り入れたことにより、まとめることを意識して授業に取り組むようになった。

(2) 課題

- ・資料を提示する際に、どのような順序で資料を読み取っていくかという具体的な指導が必要である。
- ・自分の考えを表現させるための学習活動を、単元の中に、より多く位置づけるために、さらに綿密な指導計画を立てる必要がある。